



空前の無投票か

9月17日(日)告示される美唄市長選は、無投票の見方が広がっている。8月30日(水)市役所で開かれた立候補予定者説明会に出席したのは、現職の井坂紘一郎氏の陣営だけで、共産党のほか、市議や経済人の一部に対立候補擁立の動きはあるものの告示まで一週間を残す9月10日(日)現在具体化していない。しかし無投票首長選は、終戦後の町長選を含めた過去14回の選挙で無投票に終わった前例はないという。特に79年の道議選から、当時市議会議長だった滝 正（前市長）を推すグループと別の市議を推す沢田孝夫市長（当時）と道議から衆議院に替わった渡辺省一議員のグループに保守層が分裂した。滝氏は道議選に敗れたが翌年の美唄市長選では社会党の支持も受け、よもやと思われた、おおかたの予想をくつがえして12年におよんだ沢田市長を破った。井坂氏は、それ以来続いていた。滝、渡辺両グループの政争に終止符を打つ、全市的候補として擁立された経緯がある。無風ムードのなかで井坂陣営は。美唄は政争のまち。無投票はないと思っていると、引き締めているという。この原稿が活字になるころは、どちらにして

も新市長は決まっているが、市民のための市政をねがって止まないものである。

(雨田 実記)